

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201768		
法人名	社会福祉法人 札幌蒼生会		
事業所名	グループホーム栄町		
所在地	札幌市東区北46条東16丁目1番18号 (電話) 011-782-1000		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年12月3日	評価確定日	平成19年12月17日

【情報提供票より】 (平成19年10月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年4月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	14 人	常勤13人, 非常勤1人, 常勤換算12,8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	2.3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(3F)40,000(2F)42,000円	その他の経費(月額)	高熱水費: 15,000円 暖房費(11~3月):12,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月17日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名	
要介護1	2名	要介護2	7名			
要介護3	5名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	85歳	最低	66歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人社団友善会 宮の沢ファミリークリニック ・ラビット歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム栄町は住宅街に位置しており、周辺にはスーパーや商店、郵便局、公園等があり、また、地下鉄から5分と家族等の訪問にも便利で恵まれた環境にある。当事業所は併設の通所介護事業所と棟続きで、4階建ての2階と3階に位置する2ユニットである。建物は改造したものであるが、ゆったりと開放的な造りになっている。運営者は開設当初から、「生活と生命を支える」との理念の下に、管理者と職員の育成に力を注ぎ、良質なケアサービスの提供に取り組んでいる。職員は個々の生活スタイルを尊重し、利用者の希望に添って、買い物や散歩、畑仕事等柔軟に対応して、利用者の力を引き出し、共に、笑い、会話を楽しむ関係を築きあげている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で指摘された改善点は、ほぼ実施され、玄関が分かりづらい点は、現在、事業所看板のレイアウトも出来あがり、取り付けの準備をしているところである。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者は自己評価、外部評価の意義を説明し、全体での取り組みを示した。自己評価では、ユニットごとに、各職員が評価した項目を管理者が集計し、皆で話し合い、取り組みについて確認した内容をまとめ、改善に向けて実行しているところである。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、事業所の行事、入居状況、事故などの報告をしている。利用者及び家族の代表は交代で参加しており、会議での要望や意見は事業所内で協議し運営やケアに反映させている。市町村との連携では、担当者に毎月の入居状況を報告し、区の研修や会議には参加しているが、主に情報交換になっている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱に入っていた要望は、カンファレンスで協議後、すぐに解決して家族に報告している。家族と信頼関係を築く中で訪問の際には、些細なことでも気軽に言える雰囲気をつくり、法人内にも2名の第三者委員を配置するなどの体制をとっている。家族会は運営推進会議と一緒に開催しているが、家族だけで話し合う場など、家族会のもち方を検討しているところである。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内のラジオ体操、盆踊りなどに参加し、また、町内会の清掃活動に利用者も参加しゴミ収集を一緒にしている。一方、事業所への訪問では、小、中学生や年に1回は、子供による合唱団などの訪問がある。来春には事業所前の畑に、町内会が花を用意し、職員と利用者が一緒に花壇を作る予定である。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の理念として、「生活と生命を支える」の中に、「地域共生」を掲げているが、法人の理念に組み込まれており、事業所独自の理念はつくられていない。	○	地域共生という理念の下で、地域住民と親しい付き合いもあるので、法人の理念に沿って、事業所独自の理念をつくりあげていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	運営者は全体会議で理念を周知し、管理者がその意義を内部研修などの際に伝えている。職員も共通の理解から同じ方向でケアが出来るように、常に話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が町内のラジオ体操や盆踊りなどに参加し、一方、地域からの訪問もあるなど、地元との交流を図っている。小、中学生の訪問や年に1回は、子供による合唱団、カナンプレスチャーチ教会の訪問などがあり、事業所の行事にはボランティアも受け入れている。	○	町内会の清掃活動に利用者もゴミ拾いに参加している。また、来春には事業所前の畑に、町内会が花を用意し、利用者と一緒に花壇を作る予定ということで、日常的な地域との関係づくりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は自己評価、外部評価の意義を説明し、全体での取り組みを示した。自己評価では、ユニットごとに、各職員が評価した項目を管理者が集計し、皆で話し合い、取り組むについて確認した内容をまとめ、改善に向けて取り組んでいるところである。	○	前回の外部評価で指摘された点は改善されている。また、指摘のあった玄関が分かりづらいことで、現在、事業所の看板を準備中である。レイアウトが出来ているということなので、早期の設置を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、事業所の行事、入居状況、事故などの報告をしている。利用者及び家族の代表は交代で参加しており、会議での要望や意見は事業所内で協議し運営やケアに反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は毎月の入居状況を電話で担当者に報告し、事故報告などの必要時には訪問で担当者との意見交換をしている。区の研修や会議に参加はしているが、主に情報交換になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月広報誌「蒼生」を発行し、町内会に渡している。家族には広報誌を送る際に、各人の暮らしの写真とコメントを載せた便り、看護師による健康面の報告と小遣帳のコピー、領収書などを一緒に送っている。	○	職員の発案から、利用者の1年間の暮らしの写真と作品をアルバムにして、家族にプレゼントをする準備中とのことで、記念に残る取り組みの継続を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱に入っていた要望は、カンファレンスで協議し、すぐに解決して家族に報告している。家族と信頼関係を築く中で訪問の際には、積極的な声かけを行い些細なことでも気軽に言える雰囲気をつくっている。また、法人内にも2名の第三者委員を配置している。	○	現在、運営推進会議開催時に、家族会も必要に応じて一緒に開催している。家族だけで話し合う場など、家族会のもち方を話し合っているので、家族の意見を吸い上げる仕組みづくりを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者への良質なサービスを提供するため、管理者の育成に力を入れている。職員の交代の際には、可能な限り利用者に伝え、新しく入る職員への期待感を持たせるような会話などで、親身になって支える配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が全体の年間計画を立て、それを現場の状況に合わせて管理者が研修計画を作成している。それらの中から職員は自己の目標をつくり、研修や日常のケア内容についての達成度を管理者と話し合っている。業務に必要な研修は業務扱いになり、内容は全体会議や勉強会などで報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市、区の定例グループホーム管理者会議に参加し情報交換や交流を図っている。そこでの事例検討には職員も参加し、日々のケアに活かしている。	○	他事業所に管理者と職員が、見学の予定ということなので、今後、同業者間で質を向上させていく取り組みを期待したい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の際には、本人、家族の見学を勧め、来られない時は訪問して本人の不安を取り除いている。入居後は家族から得た情報を活かし、他の利用者と一緒に過ごす場面づくりから環境に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や日々の生活で把握した利用者の得意な面を引き出している。職員は調理の方法を聞き出し、一つ、一つ教わる姿勢から利用者には自信や達成感を持たせ、俳句の得意な人には発表の場をつくり、行動を共にして、笑い、会話を楽しむ関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで心身の状態、暮らしの情報や課題を把握すると同時に、利用者との関わりで、何気ない会話の中でも、要望・希望の言葉を聞き逃さないようにしている。個人の思いを把握する中で、職員間で情報交換をした本人の望みを介護計画にあげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の残存能力、機能を活かし、本人、家族の意見を取り入れ、全職員が意見を出し合い介護計画の作成を行っている。日々の日常生活の観察、把握を行うと共に、面会時に家族の意見を聞いたり、家族に利用者がどのような思いを話しているかを聞いて、利用者の希望を取り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月ごとにアセスメントから見直しを行い、モニタリングは3ヶ月ごと状態変化を基準に見直しを行っている。入退院により、状態に変化があった時もアセスメントから見直しを行っている。家族の希望、身体、精神面の変化にも早期に対応し、個々に沿った介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、通院など柔軟に対応している。利用者の体調に応じて、点滴を行っている。地域からのグループホームの機能等についての問い合わせに、積極的に対応している。家族の面会時間や宿泊、面会時の家族の食事にも柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の看護師による健康チェックと、月2回の往診を行うと共に、24時間協力病院や看護師と早急に対応出来るように、連携が取られている。かかりつけ医の受診や通院は、利用者や家族の希望に応じて柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に向けて家族に説明すると共に、看護師と職員で研修を行い緊急時の対応について話し合っている。	○	利用者、家族に対して重度化や終末期のあり方についてアンケートを取り、同意を得て文書化する計画があるので、利用者全員の意思確認書の作成を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の性格を理解し、敬語や慣れた言葉、なまり等一人ひとりに合わせた言葉かけをしている。記録簿などは、イニシャルを使用して個人情報に気をつけ、記録を処分する時はシュレッターを使用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを尊重し、利用者の希望に添って、買い物や散歩、畑仕事など柔軟に対応している。利用者との日常会話の中で出た希望、要望も聞き入れ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて、一緒に得意料理を調理してもらったり、後かたづけなど、個々の役割分担をして、自発的な行動、意欲が持てるように対応している。利用者の希望を聞きながら、給食会議を行い、管理栄養士が献立を作成している。	○	食事が楽しめるように、バイキングや季節感のあるメニューを増やしていく予定があるので、早期の実現を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスとの関係で、午前や午後に入浴時間が変わることがあるが、毎日入浴出来るように対応している。本人の体調や、状況に合わせて入浴し、明るく会話をしながら入浴を楽しんでもらうような支援をしている。	○	利用者の意向に添って、夜間入浴や銭湯への外出などの環境づくりを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの日常生活の中で息遣を引き出し、掃除機をかけたり、ゴミを集めたり、ゴミを捨てたりなど、役割分担をしながら張り合いのある日々を過ごせるように支援している。お花見、動物園など季節ごとに、家族やボランティアの人と共に外出を楽しんでいる		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望に合わせて、個々の外出頻度、行った場所の把握をして全員が週1回以上外出出来るように支援している。買い物、散歩、近隣施設、公園など利用者に合わせて外出支援をしている。	○	冬期間も、ショッピングセンターなどを利用して、外出を楽しめる機会を設ける事を期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯対策のため、1階玄関には鍵がかっているが、常時内側からの開閉は可能になっている。ユニット玄関のエレベーターには、センサーを取り付け、外出しそうな様子を察知したら、同行して、安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日夜を想定して、年2回の防災訓練を行い避難方法を身につけている。運営推進会議で話し合いを持ち、地域の避難経路や避難場所を確認している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分量を詳細に記録し、状況の変化にすぐ対応出来るように把握している。栄養士によるカロリー、栄養のバランスを考慮した献立が作られている。個々の状況を把握し、刻みやおかゆなど、食べやすい状態の食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節の飾り付けなど、利用者と職員が手作りした物が飾られ、暖かみのある家庭的な雰囲気配慮している。広さの異なるユニットごとの共用空間は、それぞれ椅子やソファ、草花が置かれ居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた椅子や家具、生活用品が置かれ、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。広めの居室には、洗面台、広いクローゼットと棚が備えられており、個々に飾り物をしたり、写真、仏壇など利用者一人ひとりの個性のある居室になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。